



肝炎



肝炎とは？

肝臓は、体の中で最も大きな臓器で、三角形に近い形をしており、右の胸の下あたりに位置しています(下図)。

肝臓は体でたくさんの重要な役割を担っています。

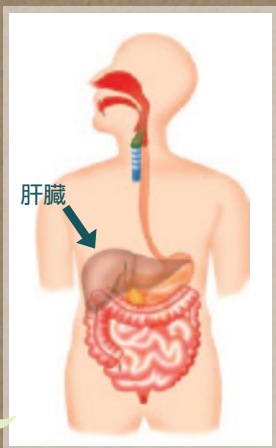
肝臓の主なはたらき

食べ物の消化を助ける胆汁を作る。

体内の毒素などを無毒化(解毒)。薬も分解する。

摂取した栄養素をエネルギーに変えたり、蓄える。

血液を固める(出血を止める)作用のある物質をつくる。



肝炎は、肝臓に炎症が起こり、肝臓の細胞が壊れてしまう病気です。

肝炎の種類¹⁻³⁾

肝炎になる原因は、肝炎ウイルスによるものが最も多いですが、その他の原因として、一部の薬の副作用によるもの、アルコールによるもの、脂肪の蓄積によるものなどがあります。

肝炎は症状が継続する期間によって2つに分類されます。一時的に症状の出る「急性肝炎」と、6か月以上症状(検査値の異常)が続く「慢性肝炎」があります。



肝炎の主な症状

急性肝炎	慢性肝炎
食欲不振、全身がだるい、吐き気、嘔吐、発熱、肝臓の部分の痛み、尿が褐色になる、黄疸(皮膚や目が黄色くなる)	全身がだるい、食欲不振、疲れやすい
※症状が出ない場合もある	※症状に気づきにくい ※症状が出ないことも多い

肝炎ウイルスの感染によって起こるウイルス性肝炎は、原因となるウイルスの種類によってA型～G型の6種類がありますが、日本で多いのは、A型、B型、C型の3つです。

ウイルス性肝炎の特徴

	感染経路	特徴	治療
A型	ウイルスを含む飲食物を口にするなどで感染。衛生状態の悪い国を訪れた旅行者に多い。	<ul style="list-style-type: none"> 症状は一時的で、慢性化することはまれ。 一度かかると免疫ができて、二度は感染しない。 	<ul style="list-style-type: none"> 入院して安静にする(急性肝炎では肝臓に流れる血液が少なくなり、動くとともに減少し回復が遅くなる)。 食欲がない場合は、点滴で栄養を補う。
B型	血液や体液を介して感染(出産時の母子感染、不特定多数との性行為など)。	<ul style="list-style-type: none"> 感染が一時的な「一過性感染」と、6か月以上続く「持続感染」がある。 一過性感染では、症状が出ないことも多いが、急性肝炎の症状が出る場合もある。 持続感染の多くはウイルスを保有しているだけで症状が現れないが、一部は慢性肝炎を発症する。 一過性感染から持続感染に移行することは少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 急性肝炎では、A型同様、安静が基本。 慢性肝炎では、薬による治療が行われる。
C型	血液を介して感染(輸血など。感染源を特定できない場合も多い)。	<ul style="list-style-type: none"> 感染力は弱い。 症状はA型やB型に比べると軽いため気づかないことも多い。 慢性化することが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 薬による治療

検査のすすめ

肝臓は予備能力の大きい臓器で、少くもダメージを受けても、症状があらわれないことも多いため「沈黙の臓器」などと呼ばれたりします。そのため、病気に気づきにくく、症状が出た時には病気が進行している場合もあり、早期発見・治療が重要になります。

C型肝炎やB型肝炎は進行すると肝硬変や肝がんの原因となることがあります。定期的にウイルス検査を受けることが大切です。一般的な健康診断には、B型肝炎のウイルス検査は含まれていないことが多いので、ご自身の健康保険組合等に確認するとよいでしょう。また、検診を受ける機会のない方には、全国の保健所や指定医療機関で検査を受けることができます(無料で検査を受けられる自治体も多い)。詳しくは、各自治体の保健所へお問い合わせください。

ウイルス性肝炎の薬

肝炎の治療法は、その原因(ウイルス性、薬の副作用、アルコール、脂肪など)によってそれぞれ異なります。薬の副作用による肝炎の場合、原因となる薬をすぐに止めれば自然に治ることが多いです。薬(とくに初めて飲んだ薬)を服用中に、急性肝炎の症状が出た場合には医師に連絡してください。

アルコールによる肝炎の場合は、必ず禁酒をする必要があります。アルコールを飲まないのに脂肪によって肝炎になった場合には、医師の指示にしたがって、食事や運動を改善していきます。

ウイルス性肝炎の場合、急性肝炎では安静や栄養の管理が中心で、薬による治療は特に必要としませんが、C型やB型肝炎ウイルスによる慢性肝炎では薬が使われます。慢性肝炎は、一部が肝硬変などに進行することがありますので、その進行を抑えることが治療の目標になります。

C型やB型肝炎の主な薬

効果	薬(主な薬の名前)
肝炎ウイルスが増えるのを抑える薬	抗ウイルス薬(テラビック、ソブリアード、レベトール、コペガス、バラクレード、ゼフィックス、ヘプセラ)
	インターフェロン(ペガシス、ペグイントロン、スミフェロン、オーアイエフ、イントロンA、フエロン)
肝臓の働きを守る薬(肝庇護剤)	グリチルリチン製剤(グリチロン)
	ウルソデオキシコール酸(ウルソ)
	漢方薬(小柴胡湯(ショウサイコトウ)、大柴胡湯(ダイサイコトウ)、柴胡桂枝湯(サイコケイシトウ))

病気のタイプや病状によって、これらの薬が単独で使われたり、組み合わせられて使われたりします。

ウイルス性肝炎のワクチン²⁾

感染予防のためのワクチンがあるのは、A型とB型肝炎です。両ワクチンとも高い予防効果があります。

A型のワクチン(HAワクチン)は、アフリカ、東南アジア、中南米など熱帯、亜熱帯の感染者の多い地域に行く予定がある場合に接種が推奨されています。通常、初回、2~4週後、6ヶ月後の3回接種で、数年間予防効果が持続すると言われています。海外渡航直前など緊急性がある場合には、初回、2週後の2回接種でも十分な効果が得られます。

B型の一般的な予防法はHBワクチン投与になります。接種方法は、初回、1ヶ月後、6ヶ月後の3回です(母子感染予防は別)。個人差はありますが、15年間前後²⁾は予防効果が持続するとされています。



【参考文献】
 1) MSD株式会社:メルクマニュアル医学百科 家庭版 <http://www.merckmanuals.jp/home/index.html>
 2) 独立行政法人 国立国際医療研究センター:肝炎情報センター <http://www.kanen.ncgm.go.jp/index.html>
 3) プリストルマイヤーズ株式会社:肝炎.net <http://www.kanen-net.info/resource/1398067766000/kanen.net/index.html>

